

企業周辺の文化を訪ねる

—— しいなりい ——

奈良県

生駒郡
安堵町
周辺



斑鳩そして飛鳥へ、のどかな田園風景の中に いにしえの日本が見え隠れ

奈良は日本国発祥の地。貴重な史跡や建造物が数多く点在しています。世界遺産のひとつ法隆寺の南東に位置する安堵町は、東京ドーム約100個分ほどの面積ながら、聖徳太子が飛鳥に通われた太子道も残る「いにしえの歴史と文化の香る町」です。四季を通じて趣ある田園風景が広がり、米の裏作として栽培したイグサでつくった灯芯は、日本の暮らしを支えてきました。



取材・写真協力: 安堵町役場
斑鳩町観光協会・奈良市観光協会

① 奈良公園

奈良市街の東方を占め、総面積は約660ha。興福寺、東大寺、春日大社、国立博物館と一体となり、さらに若草山から春日山原始林までも含む古都にふさわしいスケールです。



② 法隆寺

聖徳太子が創建したと伝えられる寺院。金堂、五重塔を中心とする西院伽藍は、世界最古の木造建築です。1993(平成5)年に、日本で初めてユネスコの世界遺産(文化遺産)に登録されました。



③ 安堵町歴史民族資料館

1887(明治20)年に大阪府から奈良県を独立・再設置に導いた功労者今村勤三の生家に、伝統産業である灯芯づくりの紹介をはじめ、安堵町に関する資料が展示されています。



④ 中家住宅

二重の壕をめぐるせた環濠屋敷。大和棟の主屋、表門、持仏堂、庫裏などが配され、中世武士の平城式居館の姿をとどめています。見学は前日までの予約制。(TEL0743-57-2283)。



⑤ 灯芯ひき

油を使った灯りや和ろうそくの芯として用いられた灯芯は安堵町の特産品。原料となるイグサの中にある芯を抜き取る「灯芯ひき」の技は、古来より連綿と引き継がれてきました。